

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	(1)定時株主総会・期末配当 3月31日 (2)中間配当を実施する場合 9月30日 (3)その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を設定いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 および お問合せ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)
単元株式数	100株
公告方法	当社のホームページに掲載します。 http://www.kanefusa.co.jp/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

(ご注意)

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行株式会社が口座管理機関となっておりますので、以下記載の特別口座の口座管理機関に、お問合せください。

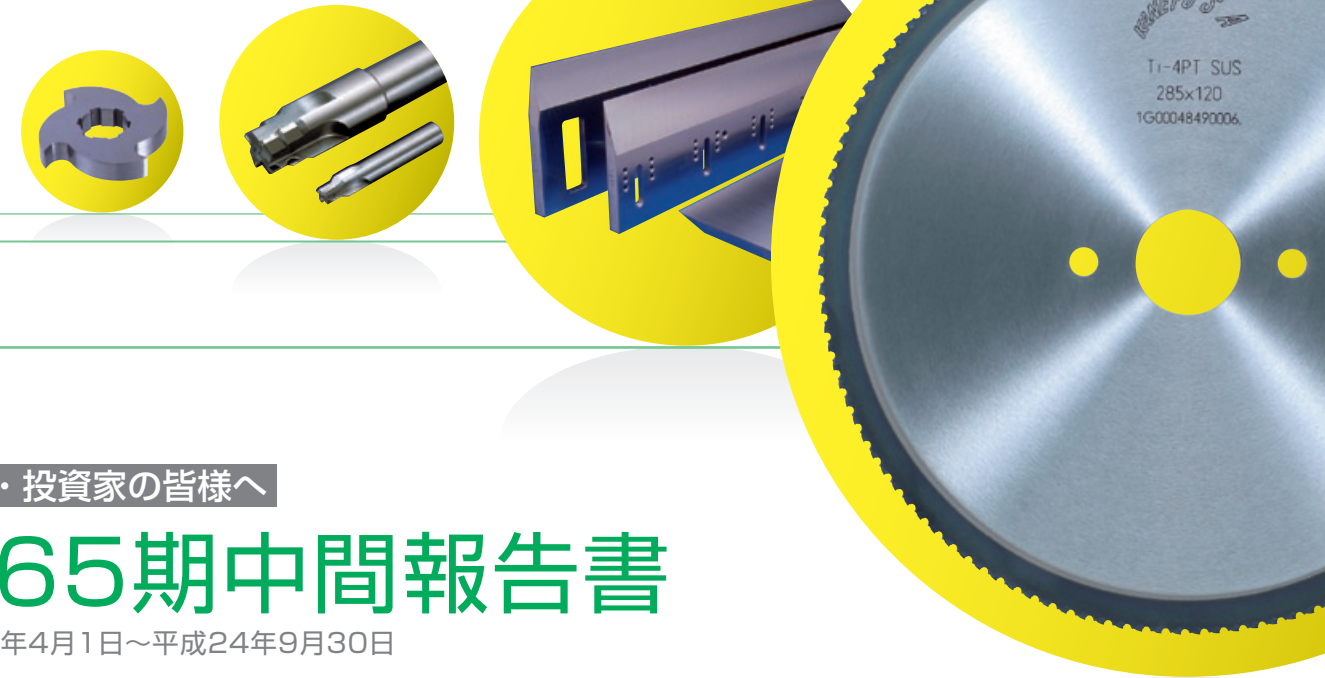
特別口座の口座管理機関 日本証券代行株式会社
連絡先 〒137-8650
東京都江東区塩浜二丁目8番18号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843(通話料無料)

ホームページのご案内

<http://www.kanefusa.co.jp>

当社ホームページでは、財務データやトピックス情報など、最新のIR情報や製品情報などをご覧ください。

KANEFUSA



株主・投資家の皆様へ

第65期中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

兼房株式会社

兼房株式会社



第65期 中間報告書
Contents

- ① 株主の皆様へ
- ③ カネフサの歴史と沿革
- ⑤ 営業の概況
- ⑦ 連結財務諸表
 - ▶ 連結貸借対照表
 - ▶ 連結損益計算書
 - ▶ 連結キャッシュ・フロー計算書
- ⑨ Topics
 - ▶ 名証IRエキスポ2012
 - ▶ IWF2012
- ⑩ Information
 - ▶ 会社概要
 - ▶ 役員
 - ▶ 株式の状況

免責事項

本報告書に掲載されている当社の計画・戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、見通し等と大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。将来予測に関する記述に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

真のグローバル化を目指してまいります。
 厳しい市場環境が続いていますが、
 足元を見つめなおすチャンスと捉え、引き続き、



取締役社長
渡邊 将人

当中間期(2013年3月期中間)の業績は
いかがでしたでしょうか？

ギリシャから端を発したヨーロッパの金融財政危機の影響が世界中に徐々に広がり、超円高水準は、もはや慢性化の様相を呈してきました。期初の段階では、秋頃からの景気回復を見込んでいましたが、中国との関係緊迫化もあり、明るい兆しが見られないまま中間期を迎えてしまった印象です。

国内市場では、復興支援政策の立ち遅れもあり、売上は前年比微増にとどまりました。被災地で住宅建設が順調に進めば、替刃などのアフターマーケット需要も高まりますが、そうした動きは鈍く、また住宅市場以外でも、自動車関連を中心に生産拠点の海外シフトが進む、いわゆる“空洞化”の状態、当社製品の国内需要は伸び悩んでいます。

海外の各拠点における展開も総じて厳しい状況で推移しております。ユーロ圏の危機が、新興国を中心に世界経済に波及し、長引く円高の影響も大きく、結果としては通期の業績予想を下方修正せざるを得ない状況となりました。

各国・各エリアそれぞれの状況について
お聞かせください。

中国市場は、反日運動の影響による自動車関連産業の稼働率低下や中国経済の減速を受けて悪化しています。ヨーロッパ市場も全体的には厳しい状況ですが、ロシアの住宅向け市場を中心になんとか健闘しています。アメリカは自動車向け市場を中心にやや回復しつつありま

す。米国子会社の新社屋もオープンしましたので、更なる市場の拡大を進めていきます。インドネシアは、一昨年に発生したストライキの影響はほぼ解消し、生産体制は整いました。現在、2012年中の完成を目指して生産設備の増強も行っており、今後の増産・拡販に向けて着々と準備を進めていきます。インドとブラジルは、世界経済全体の停滞を受けて、市場に減速感があります。それぞれ特有の国情もありますので、現地に根を張り、着実に市場を開拓してまいります。

今年度で2年目の中期経営計画では、売上・生産高の海外比率を高めていくという基本方針を掲げていますが、中国での展開をどの程度見直すべきかは一つの課題です。ただ、大前提として、カネフサは人間同士の信頼関係を大切に「地産地消」を目指して拠点展開をしてきていますので、国レベルの関係だけにとらわれることなく、現地の状況をじっくり見極めながら対処していきたいと思えます。

停滞感の強い状況下ですが、このタイミングで
どのような打開策をお考えですか？

「真のグローバル化」をより強固に推進していくために必要な社内体制の強化を進めようと思えます。

1つは、生産の作業標準の徹底見直しを行います。海外の生産拠点においては、日本では問題にならなかった生産工程での「当たり前」があいまいなものとなり、一部の作業指示が不明確になることがあります。技術伝承の核となる部分は日本も海外も同じですが、文化や国民性は全く異なります。それぞれの国のモノづくりの環境下で技術を高め、生産品目を増やしていくためには、あいまいさを排除して、文章やビジュアルではっきりと伝えることが重要です。当たり前のことですが、それを全拠点の全社員が実行できる状態を目指します。



次に、営業拠点の核となる要員のシフトを行います。同じ営業でも、拠点ごとに求められるスキルが異なりますので、異動することで組織と人に刺激を与えて、活性化を図ろうと考えています。










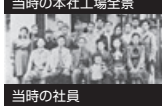




また、来春入社の新卒学生を例年の30%増しで採用しました。厳しい環境が幸いし、優秀な人材を確保することができました。ワールドワイドに活躍する意欲を持った若い人材を採用し、カネフサのグローバル化を更に加速させていきたいと考えています。

最後になりましたが、
株主の皆様メッセージをお願いします。

中間決算にあたり、通期の業績予想を下方修正いたしますが、前年比では微増ながらも増収増益を見込んでおります。

世界経済の低迷や円高など、引き続き厳しい事業環境が予想されますが、株主の皆様のご期待に応えられるよう、着実に成果を上げてまいりますので、どうぞ変わらぬご支援をお願い申し上げます。

カネフサは1896年の創業以来、一途に工業用機械刃物の製造に専念してまいりました。
「あらゆる切削技術と真の顧客サービスの提供」を理念に掲げ、「世界のカネフサ」を目指します。

<p>神谷観吉の創業</p>  <p>兼房株式会社のルーツは、神谷観吉が名古屋・五兵蔵町(現在の名古屋市西區城西)に『打刃物師 兼房』の看板を掲げ、馬の飼料にする藁を切る藁切り包丁や煙草の葉を刻む包丁などを製造したことに始まる。</p>	<p>大口工場の完成</p>  <p>伊勢湾台風で大きな被害を受けたのを契機に、愛知県丹羽郡大口町に約2万坪の土地を購入し、大口工場の建設を開始した。工場建設にあたっては、整地から工場建設までの大部分を社員の手で行った。</p> 	<p>インドネシアに生産販売子会社『PT.カネフサインドネシア』設立</p>  <p>インドネシアは木材資源国であり、合板用などの工業用機械刃物の需要が見込まれることから、インドネシア・ジャカルタに生産販売子会社を設立。</p> 	<p>アメリカに販売子会社『カネフサUSA,INC.』設立</p>  <p>アメリカ・ケンタッキー州に米国市場の直販ルートの開拓および製本紙工・木工用刃物の拡販拠点として、販売子会社を設立。</p>	<p>中国に生産子会社『昆山兼房高科技刀具有限公司』設立</p>  <p>中国・江蘇省昆山市に価格競争力の強化および中国マーケット開拓のため、生産子会社を設立。</p>	<p>インドに販売子会社『カネフサ インディア Pvt.Ltd.』設立</p>  <p>インド市場において、自動車関連などの工業用機械刃物の需要増大が見込まれることから、販売および再研磨サービスを開始するため、インド・グルガオンに販売子会社を設立。</p>
<p>1896年 (明治29年)</p>	<p>1948年 (昭和23年)</p>	<p>1965年 (昭和40年)</p>	<p>1986年 (昭和61年)</p>	<p>1999年 (平成11年)</p>	<p>2009年 (平成21年)</p>
<p>兼房刃物工業株式会社の設立</p> <p>名古屋市熱田区六番町に兼房刃物工業株式会社を資本金100万円、従業員数25名という規模で設立。かなな刃・ジョインターナイフ・木毛かなな刃・断裁包丁などを製造。</p>  	<p>業界初の売上高100億円達成</p> <p>ユーザーの生の声を聞き製品改良に積極的に取り組んだことや、替刃式のエース刃物各種、スローアウェイカッター・ビットなどを新製品として発売したことが契り、業界で初めて売上高100億円を達成。</p>	<p>名古屋証券取引所市場第2部へ上場</p> 	<p>オランダに販売子会社『カネフサヨーロッパB.V.』設立</p>  <p>オランダ・アイントホーフェンに欧州での販売拡大・強化を図るには、技術サービス・市場ニーズの把握等、現地に密着した活動が必要となることから、販売子会社を設立。</p>	<p>東京証券取引所市場第2部へ上場</p> 	<p>ブラジルに販売子会社『カネフサド ブラジル LTDA.』設立</p>  <p>ブラジル市場において、自動車や鉄鋼、製紙、木工関連などの工業用機械刃物の需要増大が見込まれることからブラジル・サンパウロ市に販売子会社を設立。</p>

カネフサ製品の歴史



概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では住宅市場の持ち直しや新車販売台数など、緩やかな回復基調で推移しましたが、債務問題の深刻化に直面したユーロ圏の景気低迷に加えて、その影響が中国等新興国を中心として広範な地域に波及したことなどにより、不透明感が更に深まりました。一方、わが国経済は、復興関連需要やエコカー補助金などの政策効果による下支えがありましたが、歴史的水準での円高継続や海外景気不振などの影響を受けて、予断を許さない状況になっております。

このような状況の下、当社グループは、海外生産の増強、グローバル市場での販売拡大、国内住宅関連市場の占有率拡大や非住宅関連市場の開拓などを目指し、戦略的な製品開発、生産、営業活動を展開いたしました。

売上高

国内における売上は、復興需要や住宅エコポイントなどを背景に新設住宅着工戸数は持ち直しの動きが見られ、住宅関連刃物が堅調に推移いたしました。また、自動車販売の好調もあり、自動車関連刃物も堅調に推移いたしました。一方、海外での売上は、東南アジア市場での合板関連刃物や米国市場においての自動車関連刃物は堅調であったものの、欧州市場での景気低迷による在庫調整の影響などにより木工関連刃物などが低調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は74億4百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

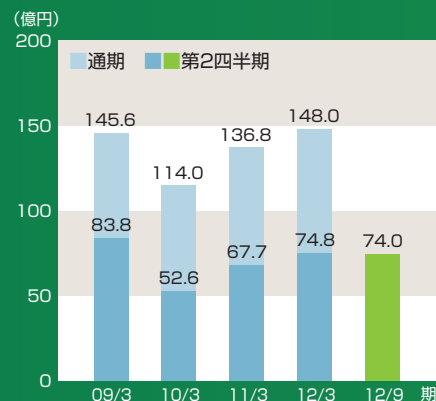
利益

利益面につきましては、営業利益は4億9千2百万円（前年同期比3.9%減）となりました。また、円高の影響を受け、為替差損を1億3千9百万円計上いたしました。経常利益は3億6千3百万円（前年同期比1.8%増）、四半期純利益は2億5千万円（前年同期比44.7%増）となりました。

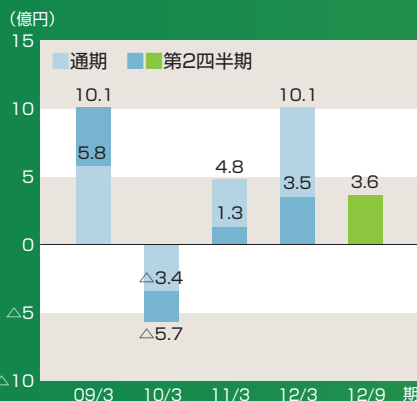
通期の見通し

通期の連結業績予想につきましては、連結売上高150億円、営業利益10億7千万円、経常利益9億7千万円、当期純利益6億2千万円を見込んでおります。

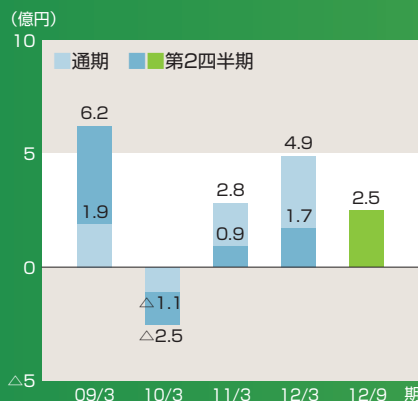
売上高



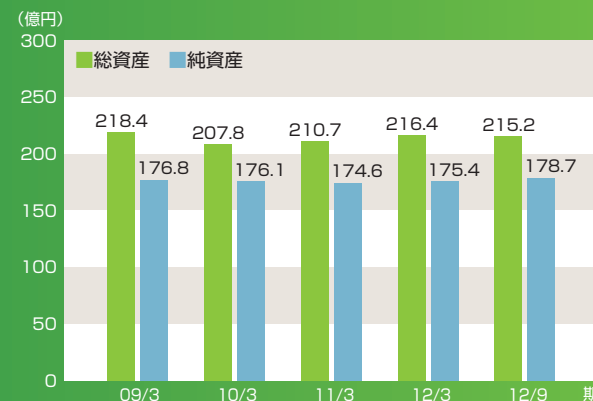
経常利益



四半期（当期）純利益



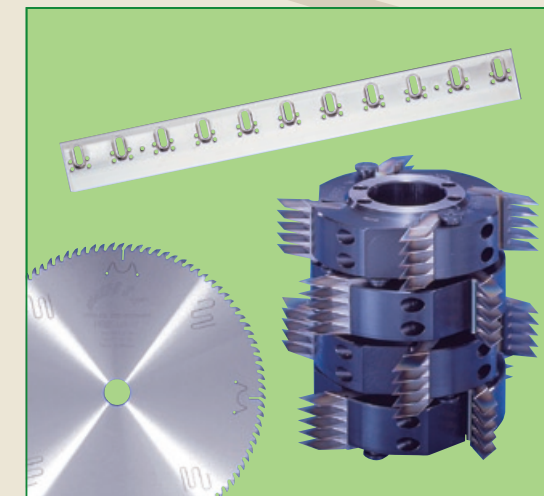
総資産・純資産



トップシェアを誇る
木工用刃物製品ラインナップ

木質材料加工用工具

兼房の木質材料加工用工具は、長年の技術の蓄積と先進技術によって各方面から高い信頼を得ています。世界に誇る豊富な製品ラインナップを取り揃えており、さまざまな切削条件、加工方法に応じて高精度で切れ味の良い切削工具を提供しています。



総資産

流動資産は現金及び預金が減少したことなどにより、前期末比3億8千3百万円減少の117億8千1百万円となりました。固定資産は投資その他の資産が1億5百万円減少したものの、有形固定資産が2億1千6百万円増加したことなどにより、前期末に比べて2億7千万円増加の97億4千6百万円となりました。その結果、総資産は前期末比1億1千2百万円減少して215億2千7百万円となりました。

負債

支払手形及び買掛金の減少などにより、前期末比4億4千万円減少して36億5千3百万円となりました。

純資産

利益剰余金が前期末比1億4千6百万円増加し、その他の包括利益累計額が前期末比1億8千2百万円増加したことにより、前期末比3億2千8百万円増加して178億7千4百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の81.1%から83.0%となりました。

連結貸借対照表(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期末	前期
		平成24年9月30日現在	平成24年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産		11,781,819	12,165,285
固定資産		9,746,079	9,475,094
資産合計		21,527,898	21,640,380
(負債の部)			
流動負債		2,995,651	3,378,187
固定負債		658,022	716,457
負債合計		3,653,674	4,094,645
(純資産の部)			
株主資本		18,120,253	17,973,900
その他の包括利益累計額		△246,029	△428,164
純資産合計		17,874,223	17,545,735
負債純資産合計		21,527,898	21,640,380

連結損益計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
売上高		7,404,351	7,485,027
売上原価		4,928,144	4,959,190
売上総利益		2,476,207	2,525,836
販売費及び一般管理費		1,983,616	2,013,462
営業利益		492,591	512,374
営業外収益		28,010	25,563
営業外費用		157,156	180,944
経常利益		363,445	356,993
特別利益		470	1,188
特別損失		22,387	45,757
税金等調整前四半期純利益		341,527	312,423
法人税等		90,828	139,197
少数株主損益調整前四半期純利益		250,699	173,226
四半期純利益		250,699	173,226

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:千円

科目	期別	当第2四半期	前第2四半期
		平成24年4月1日から平成24年9月30日まで	平成23年4月1日から平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		776,236	930,440
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,227,673	△579,679
財務活動によるキャッシュ・フロー		△104,346	△104,255
現金及び現金同等物に係る換算差額		△11,445	△25,365
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△567,228	221,139
現金及び現金同等物の期首残高		3,328,698	3,168,711
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		-	22,304
現金及び現金同等物の四半期末残高		2,761,470	3,412,155

個人投資家向けIR活動の一環として、
名証IRエキスポ2012に出展しました。

平成24年7月20日 ▶▶▶ 21日

来場者総数が過去
最多の6,800名と
なった今回は、当社
のブースにも多数の
投資家が来訪されま
した。



ブースでは、展示
した当社製品をご覧頂きながら、事業内容や当社の強み、
業績推移等を説明し、来場者からは業績予想や配当計画
等の多くの質問を頂きました。

当社製品は工場で使用されるため、一般の個人投資家
の方々にはなじみが薄く、当社株式は投資対象として認知
されにくい傾向があります。今後もこのような機会を活用
し、積極的なIR活動に努めます。



米国最大の木材加工展IWF 2012に
出展しました。

平成24年8月22日 ▶▶▶ 25日

2年に一度開催される、米国最大の木材加工展IWF
(International Woodworking Fair)2012がジョー
ジア州アトランタで開催され、当社も出展しました。今回
の出展社数は902社と、米国の住宅着工戸数の回復傾向
を反映し、前回よりも増加しました。当社はチップソーを中
心とした木材加工用刃物を展示しました。また、出展製品
のうち、優れた製品が選定される「チャレンジャーズ・ア
ワード」に当社は「Uformer Cutter」を申請し、刃物工具



メーカーでは唯一最終
審査に残ることが
できました。カネフサ
ブランドを北米に浸透
させる実のある展示
会となりました。



Information

会社概要 (平成24年9月30日現在)

商号	兼房株式会社 KANEFUSA CORPORATION
設立	昭和23年11月25日
資本金	21億4,250万円
本社所在地	愛知県丹羽郡大口町中小口一丁目1番地
従業員数	580名
主要な事業内容	工業用機械刃物・工具・工作機械・機械部品の製造販売。ならびに、関連する事業に対する投融資および技術供与。
主要な事業所	本社・工場 愛知県丹羽郡大口町 支社 中部 関東 関西 営業所 札幌 仙台 広島 高松 福岡 海外駐在員事務所 マレーシア
子会社	PT.カネフサインドネシア カネフサUSA,INC. カネフサヨーロッパB.V. 昆山兼房高科技刀具有限公司 カネフサインディア Pvt.Ltd. カネフサ ドブラジル LTDA. 大口サービス株式会社

役員 (平成24年9月30日現在)

取締役社長	渡邊 将人	取締役	春日 晃
専務取締役	太田 正志	取締役	萬谷 哲朗
常務取締役	平子 哲朗	取締役	石田 信之
常務取締役	西尾 悟	取締役	山川 寿康
常務取締役	藤吉 芳久	常勤監査役	柳瀬 敏行
常務取締役	鈴木 仁	監査役	辻中 修
		監査役	鮎澤 多俊

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	14,310,000株
株主数	2,076名

■大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
大口興産株式会社	2,299	16.5
渡邊 裕子	1,210	8.7
太田 万佐子	1,171	8.4
兼房従業員持株会	927	6.6
渡邊 美奈子	805	5.7
渡邊 浩	743	5.3
渡邊 将人	426	3.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	409	2.9
太田 正志	397	2.8
株式会社りそな銀行	200	1.4

(注)持株比率は自己株式(409千株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況

